資料5

津安芸農業協同組合

川辺氏　提出資料

ＪＡ津安芸における生産資材費等生産コスト縮減の取組みについて

平成１８年７月

三重県ＪＡ津安芸

JA津安芸における生産資材費等生産コスト縮減の取組

低コスト化のための取組み

1. 低コスト資材の普及

○水稲元肥一発肥料(エムコート) → *追肥が不要で労力軽減*

○輸入化成肥料(アラジン化成) → *国産高度化成より2割以上安価*

○ジェネリック農薬(ジェイエース) → *既存殺虫剤より1割以上安価*

管内における低コスト資材の利用量の推移

	15年産	16年産	17年産	18年産	普及率
エムコート(t)	380	395	427	460	水稲作付面積の50%以上
アラジン(t)	253	318	382	368	麦作付面積のほぼ100%
ジェイエース(kg)	1,055	2,286	2,421	−	−

注:18年産のアラジンは農家段階での16年産以降の持ち越しや麦の作付面積の減により減少した。

2. 生産性向上・省力化技術の普及

○側条施肥(普及率:8割) → *環境負荷軽減、施肥量低減*

○湛水直播栽培(同:実証レベル) → *育苗・移植の省略*

3. 担い手づくりと農業機械の効率利用

○認定農業者等担い手への作業の集積による規模拡大とこれに伴う農業機械の効率利用

○中古農機の活用促進(17年度JA販売実績 30台) → *初期投資の低減*

○ケイカルのフレコン(200kg袋)受入と担い手による効率散布(17年度565.8ha)

→ *土づくり、散布作業の効率化、流通の合理化*

4. 流通コスト削減

○米のフレコン(1t)出荷 → *大規模農家の袋への詰替え作業の省略*

ＪＡ津安芸における今後の課題

○集落型経営体の育成

(将来、高齢化によるオペレーター不足が懸念されるため、営農組合を地権者も含めた集落型経営体への発展が課題)

○ 省力・低コスト資材のさらなる普及

(小ロットでの資材の低コスト化には限界があり、担い手の育成と一体となった大口需要者向けの農薬の大型規格品等低コスト資材の普及拡大と効率利用が必要)

○ 農家への情報提供、営農相談に的確に対応できる営農指導員の人材育成と「出向く営農指導体制」の確立

(認定農業者・大口需要家を担当する営農経済専任渉外担当(10名)と一般組合員を対象とする渉外担当(20名)とに分け階層別対応を実施しているが、全体のレベルアップと農家への情報提供が課題)

○ 物流合理化と営農センターの機能向上

(肥料・農薬の配送業務を営農センターから分離し、指導体制の強化を図る)

○ ポジティブリスト制への対応

(少量多品目を生産する産直部会員への農薬の飛散防止への取組を推進)

【管内農業とJAの概要等】

主要農産物販売高:17年度実績 16.5億円(内訳 米:10.7億円 麦・豆・雑穀:2.1億円 野菜:1.7億円)

17年水稲面積2,785ha(16年2,770ha) 麦541ha(16年589ha)

主な生産資材供給高:17年度実績 3,033百万円(内訳 肥料300百万円 農薬194百万円 農業機械325百万円)

組合員数 正組合員8,056名(個人)、認定農業者数53名(主穀)、産直部会員310名

特徴ある取組:「親子農業体験ツアー」「生産者と消費者の交流会」等多彩なイベント企画。稲作部会と連携した食農教育の実施